

北陸諸方言における主格形式ア・ナの機能と成り立ち

松倉昂平(金沢大学) 米村雪乃(東京外国語大学大学院)

令和7年度第2回「危機言語の保存と日琉諸語のプロソディー」

合同研究発表会 2026年3月14日

研究対象——主格形式ア・ナ

- 石川県白山市河原山方言：

- (1) a. タローア アスンドッタ
「太郎が遊んでいた」 【文焦点】
b. タローア ドコ イッタガヤ
「太郎はどこへ行ったの」 【主題】

- 富山市方言：

- (2) a. タローナ アソンドラー
「太郎が遊んでいる」 【文焦点】
b. タローナ ドコ イッタ
「太郎はどこへ行ったの」 【主題】
- (3) アレ {ユキ \emptyset /ユツキヤ (<ユキア) /ユキナ} フツテキタジャ
「あれ？雪が降ってきたよ」

(小西2016:104 (1) 一部改)

発表の構成

1. 関心・問題のありか
 - a. 日本語諸方言における示差的主語標示 (DSM)
 - b. 北陸諸方言における課題 (地域差／アの機能)
2. 調査地点
3. 主格形式ア・ナの分布・機能 — 動作主性・有生性、主題性の関与
 - 3.1 白山市河原山
 - 3.2 三国町安島
 - 3.3 七尾市
 - 3.4 富山市
4. アをめぐる形態音韻論 — アの成り立ち

1. 関心・問題のありか

焦点性に基づく示差的主語標示(DSM)

- 富山市方言 (小西 2016, 2022)

(4) a. ゴゴ° アメ {∅/??カ°} フルヨ。 カサ {∅/??オ} モツテカレ
「午後雨が降るよ。傘を持って行きなさい」 【文焦点】

b. ダレ {∅/カ°} サラ∅ ワッタカ°
「誰が皿を割ったの？」 【項焦点 (WH焦点)】

- 主語 (A, S) も目的語 (P) もゼロ標示を基本とする
- ただし焦点を明示する場合、主語はカ° 目的語はオで標示し得る
- 焦点性に基づく**示差的主語標示 (DSM)** ・ 示差的目的語標示 (DOM) が存在

動作主性・有生性に基づくDSM

- 熊本市方言（高齡層）（坂井 2019 に基づく）

(5) a.	K {ガ/*ン}	つぼバ	たおした	
	K-主格	壺-対格	倒した	【固有A】
b.	ねこ {ガ／ン}	いぬバ	ひっかいたったい	
	猫-主格	犬-対格	ひっかいたんだよ	【動物A】
c.	K {ガ／ン}	たおれた		
	K-主格	倒れた		【固有Sp】

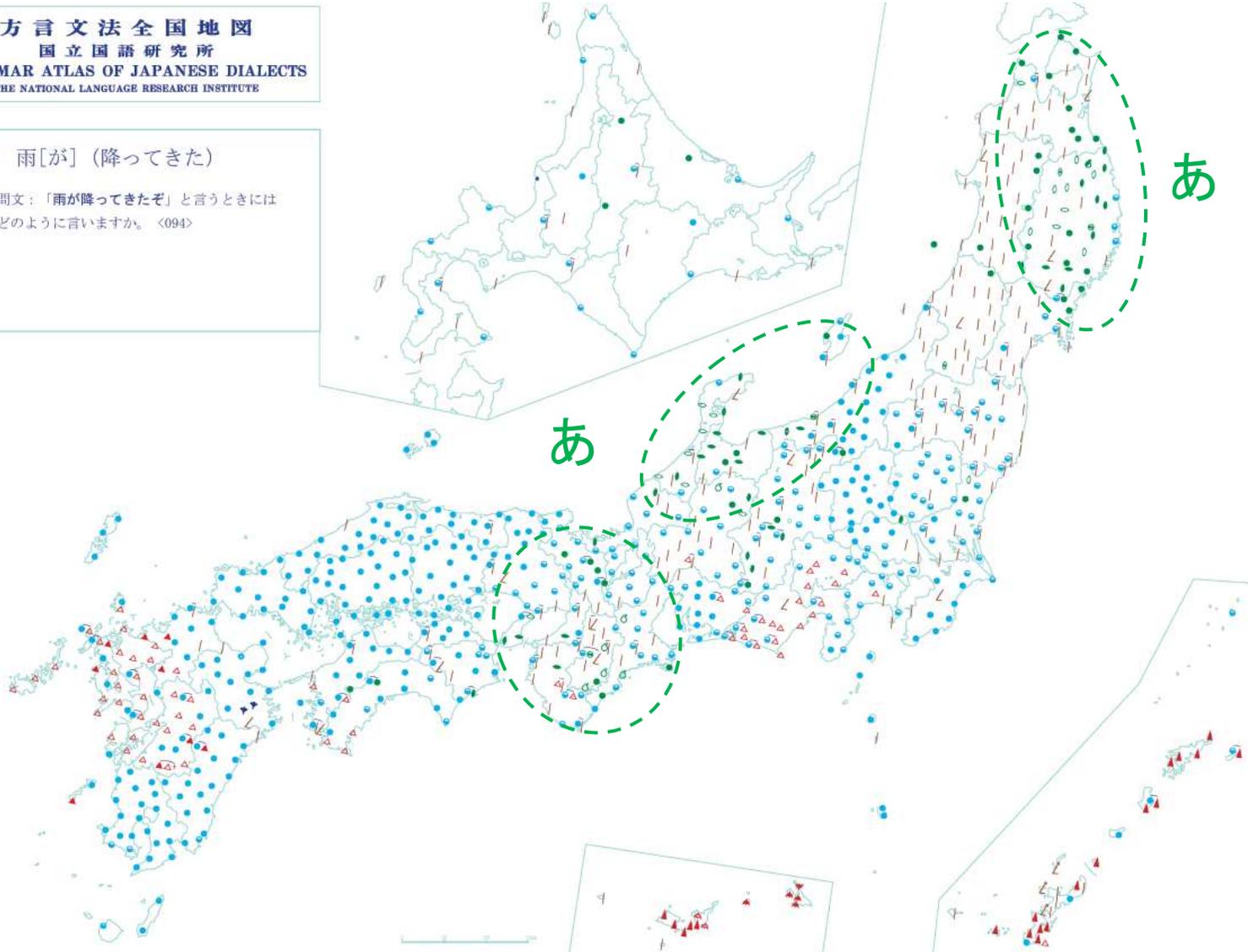
- 主語（A, S）はゼロ標示を許容せずつねに有形標示（有標主格性）
- 動作主性・有生性に基づく示差的主語標示（DSM）が存在

「雨が降ってきたぞ」 (GAJ 第1図)

方言文法全国地図
国立国語研究所
GRAMMAR ATLAS OF JAPANESE DIALECTS
THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE

1 雨[が] (降ってきた)

質問文: 「雨が降ってきたぞ」と言うときには
どのように言いますか。 <094>



課題

- 主格形式アの分布・機能（他の形式との違い）
 - 今回は特にゼロ標示（無助詞）との互換可能性に注目
- 北陸内部の格体系の地域差
 - 特に石川・福井両県における体系的な調査が少ない

2. 調査地点

調査地点・調査方法

- 共通の調査票を用いた翻訳式調査
- 今回は、動詞述語文のみを取り扱う

- 調査地点

富山県富山市

石川県七尾市

石川県白山市^{かわら やま}河原山

福井県坂井市三国町^{あんとう}安島



【話者・調査時期】 富山：1949年生女性（25年12月、26年1月、2月）、七尾：1947年生男性（25年12月、26年1月）、河原山：1941年生男性（25年9月、11月）
安島：1941年生女性（25年5月、6月、9月、12月、26年2月）

3. 主格形式ア・ナの分布・機能

文焦点主語の格標示（白山市河原山）

- 文焦点主語は有形標示（ア）を基本とするが動作主性・有生性が低ければゼロ標示（∅）を許容する

- (6) a. タロー {*∅/ア} タオレトッタ
 「（部屋の中を見ると）太郎が倒れていた」 【固有Sp】
- b. コドモ {?∅/ア} タオレトッタ
 「（部屋の中を見ると）子供が倒れていた」 【人間Sp】
- c. カンバン {ok∅/ナ} タオレトッタ
 「（外を見ると）看板が倒れていた」 【無生Sp】
- (7) a. タヌキ {?∅/ヤ} クリ クトッタ
 「（外を見ると）狸が栗を食べていた」 【動物A】
- b. タヌキ {ok∅/ヤ} シンドッタ
 「（外を見ると）狸が死んでいた」 【動物Sp】

動作主性・有生性に基づくDSM（白山市河原山）

- 文焦点主語は有形標示（**A**）を基本とするが動作主性・有生性が低ければゼロ標示（ \emptyset ）を許容する
- 動作主性と有生性の関与をクロス階層（下地2019など）で整理する：

文焦点		有生性				
		代名詞	親族・固有	人間	動物	無生物
動作主性	A	A		A/?~*\emptyset		
	Sa					
	Sp					

- 動作主性・有生性以外の要因も関与するか？

主題性に基づくDSM（白山市河原山）

- 「主題性」（丹羽1989）が高い主語はゼロ標示（ \emptyset ）を許容する

A) 談話上既出：

- (8) a. トツショリ { $*\emptyset$ / ヤ} アツマツトツタ
「（公民館に行ったら）年寄りが集まっていた」 【文焦点】
- b. ソノ トツショリ { $ok\emptyset$ / ヤ} ドコ イッタガヤ
「その年寄りはどこへ行ったんだ」 【主題(文脈照応)】

B) 発話現場に存在する：

- (9) a. タヌキ { $?\emptyset$ / ヤ} クリ クトツタ
「（外を見たら）狸が栗を食べていた」 【文焦点】
- b. コノ タヌキ { $ok\emptyset$ / ヤ} ナニ クトルガヤ
「この狸は何を食べているんだ」 【主題(現場指示)】

〈参照〉

“identifiability” (Chafe 1976, Lambrecht 1994)

C) 聞き手にとって特定可能：

- (10) a. デカイ タヌキ {[?]∅ / ヤ} オッタワ
(昨日一人で山へ行って見た狸を思い出して)
「大きい狸がいたよ」 【不定Sp】
- b. デカイ タヌキ {^{ok}∅ / ヤ} オットナ
(昨日聞き手と一緒に見た狸を思い出して)
「大きい狸がいたね」 【定Sp】

D) 状況・文脈から連想可能：

- (11) a. バス {[?]∅ / ア} アッチカラ クルゾ
(バスを待つ場面以外で単にバスが近づいて来ることを指摘)
「バスが向こうから来るぞ (気をつけろ)」 【不定Sp】
- b. バス {^{ok}∅ / ア} アッチカラ クルゾ
(バスを待つ場面で、待っていたバスが来たことを教える)
「バスが向こうから来るぞ」 【定Sp】

文焦点主語の格標示（三国町安島）

- 文焦点主語は原則として主格標示（ア）される

(12) a. ワガイノ ネサン { * \emptyset / ガ } タオレトッタ

「（外を見たら）お前の所の姉さんが倒れていた」 【人間Sp】

b. ネコメ { * \emptyset / ア } ゴンメトッタワ

「（海を見たら）猫が溺れていた」 【動物Sp】

c. カンバン { * \emptyset / ガ } タオレトッタ

「（外を見たら）看板が倒れていた」 【無生Sp】

(13) a. { *ナスビ \emptyset / ナスツバ（<ナスビア） } アツバオ スーテシモタ

「茄子が油を吸ってしまった」 【無生A】

b. { *ナスビ \emptyset / ナスツバ（<ナスビア） } カレテモトッタ

「（畑に行ったら）茄子が枯れてしまっていた」 【無生Sp】

動作主性・有生性・主題性に基づくDSM (三国町安島)

- 動作主性・有生性が低く (=動物or無生名詞のSp(被動者的な自動詞主語))
かつ「主題性」が高い主語はゼロ標示 (∅) を許容する

A) 談話上既出 / B) 発話現場に存在する:

- (14) a. ソノ {*トツショリ∅ / トツショツダ (<トツショリア)} ナンゴ シトツタ
ンジャロカナ
「その年寄りは何をしていたんだらうかね」 【人間A】
- b. アノ {?トツショリ∅ / トツショツダ (<トツショリア)} イツ シンダンジャ
「あの年寄りはいつ死んだんだ」 【人間Sp】
- (15) a. コノ フネ {*∅ / ア} ドコ イクンジャロナ
「この船はどこへ行くんだらうな」 【無生Sa】
- b. コノ フネ {ok∅ / ア} イツ コワレタンジャロナ
「この船はいつ壊れたんだらうな」 【無生Sp】

C) 聞き手にとって特定可能 :

- (16) a. イケイケ {[?]タヌキ \emptyset / タヌツカ (<タヌキ^ア)} オツタンジャワ
(昨日一人で山へ行って見た狸を思い出して)
「(昨日)大きい狸がいたんだよ」 【不定Sp】
- b. イケイケ {^{ok}タヌキ \emptyset / タヌツカ (<タヌキ^ア)} オツタナ
(昨日聞き手と一緒に見た狸を思い出して)
「(昨日)大きい狸がいたね」 【定Sp】
- (17) a. チャワン {^{*} \emptyset / ^ガ} ワレトツタワ
「(台所に行ったら)茶碗が割れていた」 【不定Sp】
- b. ワレノ チャワン {^{ok} \emptyset / ^ガ} ワレトツタワ
「(台所に行ったら)お前の茶碗が割れていた」 【定Sp】

動作主性・有生性・主題性に基づくDSM（三国町安島）

- 動作主性と有生性の関与をクロス階層（下地2019など）で整理する：

		有生性				
		代名詞	親族・固有	人間	動物	無生物
動作主性	A	ア/∅	ア			
	Sa					
	Sp		ア(/∅)※			

- ※ 動物or無生名詞の被動者的な自動詞主語（Sp）のうち、「主題性」が高い場合はゼロ標示を許容する

文焦点主語の格標示（七尾市）

- 文焦点主語は有形標示（ア）とゼロ標示（∅）の併用を基本とするが動作主性が低いとゼロ標示（∅）が好まれる

- (18) a. タロー {ア/∅} エー カイトライ
「（部屋の中を見たら）太郎が絵を描いている」 【固有A】
- b. タロー {ア/∅} アソンドルワ
「（部屋の中を見たら）太郎が遊んでいた」 【固有Sa】
- c. タロー {∅/ア} タオレトッタ
「（部屋の中を見たら）太郎が倒れていた」 【固有Sp】

※左右で容認度に
差あり
(左が第一回答)

動作主性・有生性に基づくDSM (七尾市)

- (19) a. {タヌキ_ア (<タヌキ_ア) / タヌキ_∅} クリ タベトル
 「狸が栗を食べている」 【動物A】
- b. {タヌキ_∅ / タヌキ_ア (<タヌキ_ア) } アルイトル
 「狸が歩いている」 【動物Sa】
- c. {タヌキ_∅ / タヌキ_ア (<タヌキ_ア) } シンドルヨ
 「狸が死んでいるよ」 【動物Sp】

※左右で容認度に
 差あり
 (左が第一回答)

文焦点		有生性				
		代名詞	親族・固有	人間	動物	無生物
動作主性	A	∅	ア/∅			∅/ア
	Sa		∅/ア			
	Sp		∅/ア			

情報構造の不関与（七尾市）

- 焦点主語か主題主語かは格標示にほとんど関与しない（cf. (19)）

(20) a. コノ {タヌキ_ヤ / タヌキ_∅} ナニ タベトッテンロナ
「この狸は何を食べていたんだろうな」 【主題・動物A】

b. アノ {タヌキ_∅ / タヌキ_ヤ} ドコ イッテンロナ
「あの狸はどこへ行ったんだろうな」 【主題・動物Sa】

c. コノ {タヌキ_∅ / タヌキ_ヤ} ドコニ シンドッテンロ
「この狸はどこで死んでいたんだろう」 【主題・動物Sp】

※左右で容認度に
差あり
(左が第一回答)

(21) {タヌキ_∅ / タヌキ_ヤ} シンドッタワ
(「何が死んでたの？」に対して)
「狸が死んでいた」

【WH応答焦点・動物Sp】

文焦点主語の格標示（富山市）

- 文焦点主語はゼロ標示（ \emptyset ）を基本とするが主格標示（**+**）も併用し得る

- (22) a. タロー { \emptyset / Δ **+**} エー カイトラー
「（部屋の中を見たら）太郎が絵を描いている」 【固有A】
- b. タロー { \emptyset / Δ **+**} タオレトラー
「（部屋の中を見たら）太郎が倒れている」 【固有Sp】
- c. ナス { \emptyset / Δ **+**} アブラ スツテシモタ
「茄子が油を吸ってしまった」 【無生A】
- d. ナス { \emptyset / Δ **+**} カレトツタワ
「（畑に行ったら）茄子が枯れていた」 【無生Sp】

※ Δ ：本調査の話者自身は使わないが（婦中町付近で）耳にする形

主題主語の格標示（富山市）

- 主題主語においてもゼロ標示と主格標示（**+**）の分布は焦点主語と変わらない（cf. (22)）

- (23) a. タロー { \emptyset / Δ **+**/**チャ**/**ワ**} ナニ シトツタガカネ
「太郎は何をしていたのかね」 【主題・固有A】
- b. タロー { \emptyset / Δ **+**/**チャ**/**ワ**} ドコニ シンドツタン
「太郎はどこで死んでいたの」 【主題・固有Sp】
- c. コノ フネ { \emptyset / Δ **+**/**チャ**/**ワ**} ナニ ハコンドンガケ
「この船は何を運んでいるの」 【主題・無生A】
- d. コノ フネ { \emptyset / Δ **+**/**チャ**/**ワ**} イツ コワレタガー
「この船はいつ壊れたの」 【主題・無生Sp】

動作主性・有生性に基づくDSM（富山市）

- 自動詞主語のうち、出現や天候を表す文（いわゆる存現文の一部）の主語は主格標示（**+**）を許容しにくい

(24) ムコツカラ バス { \emptyset /**??+**} クルワ
「向こうからバスが来るよ」

【無生Sp[出現]】

(25) ゴゴ アメ { \emptyset /**??+**} フルワ
「午後雨が降るよ」

【無生Sp[天候]】

		有生性				
		代名詞	親族・固有	人間	動物	無生物
動作主性	A	\emptyset	\emptyset / +			\emptyset (/ +)※
	Sa					
	Sp					

※一部のSp（存現文の主語）は主格標示（+）不可

(まとめ) 主格形式ア・ナの分布・機能

- 主格形式（ア・ナ）で標示できない主語はほとんどない
 - 動作主性・有生性や情報構造にかかわらず最も広く用いられる、主として主語を標示する格形式
- 2つの異なる原理（動作主性・有生性と主題性）が関与する示差的主語標示（ア/∅ 交替）が確認された

	動作主性	有生性	主題性
白山市河原山	A. 動作主性・有生性が高いと主格標示（ア）が義務的		B. 主題性が高いとゼロ標示（∅）を許容
三国町安島			
七尾市	動作主性が高いと主格標示（ア）を選好	—	—
富山市	一部のSp（存現文の主語）は主格標示（ナ）不可		—

4. アをめぐる形態音韻論

主格形式をめぐる形態音韻論

- 三国町安島方言：

(26) a. コドマ { \emptyset / *ア / ??ガ}

「子供が遊んでいた」

アスンドッタ

【文焦点】

b. イトコ {* \emptyset / ア / ??ガ}

「いところが遊んでいた」

アスンドッタ

【文焦点】

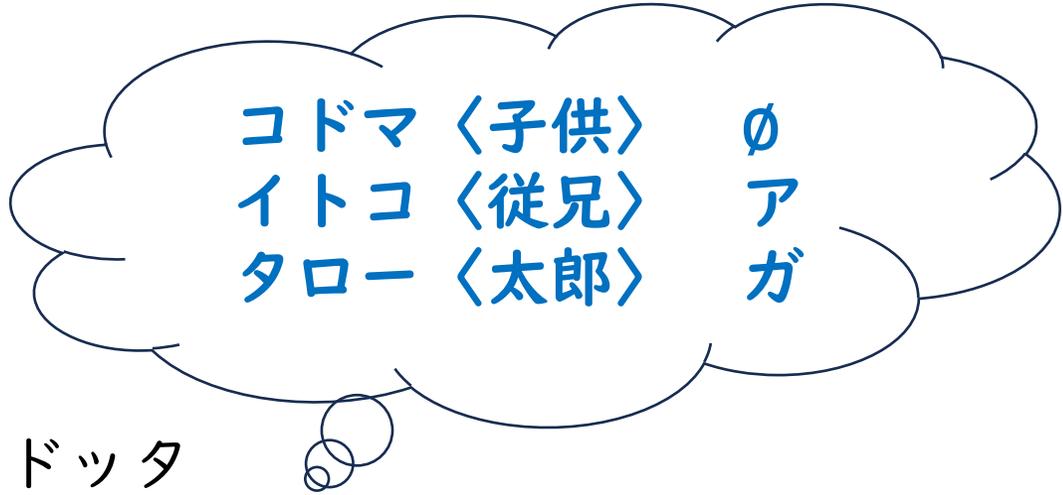
c. タロー {* \emptyset / *ア / ガ}

「太郎が遊んでいた」

アスンドッタ

【文焦点】

- 〈子供〉はゼロ標示、〈いところ〉は「ア」、〈太郎〉は「ガ」？



コドマ	〈子供〉	\emptyset
イトコ	〈従兄〉	ア
タロー	〈太郎〉	ガ

主格形式をめぐる形態音韻論（三国町安島方言）

語末音	語例	見出し形	主格形（-ガ, -ア, -∅）
/a/	子供	コドマ	コドマ-∅
/e//o/	いところ	イトコ	イトコア（<イトコ-ア）
/i//u/	狸	タヌキ	タヌッカ（<タヌキ-ア）
/N//R/	太郎	タロー	タロー-ガ

← ゼロ標示（見出し形）
と同形

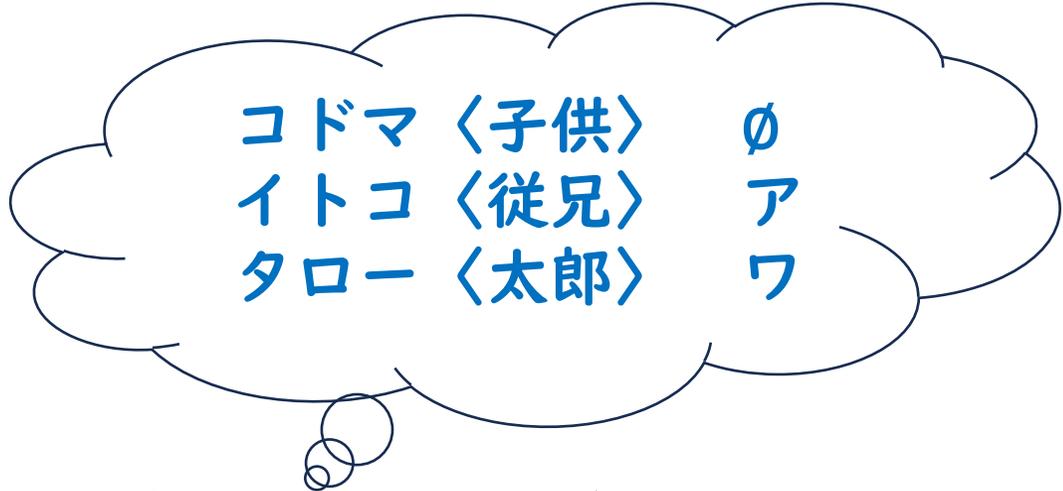
- 主格形式アに、語末音等に条件付けられた異形態 **ガ**, **∅** を認める
（=主格形式ガに、語末音等に条件付けられた異形態 **ア**, **∅** を認める）
- 形態音韻的な要因による格標示の脱落・消失は一般的に示差的項標示とはみなされないが（Handschuh 2014）、格体系を論じるにあたっては、格形式をめぐる形態音韻論の解明が前提として必要（意外とここが複雑だった）

(参考) 三国町安島方言の主格形フローチャート



語末音	語例	見出し形	主格形 (-ア, -ガ)	分類
/mi//mu/ /ɲi//ɲu/	海 鍵	ウミ カギ	ウン-ガ カン-ガ	語末音節が撥音化
/ni/ /(C)ju/	壁蝨 冬	ダニ フユ	ダニア [dan ^j ia] (＜ダニ-ア) フユア [ɸuju ^a] (＜フユ-ア)	語末母音が非成節化
/hi//hu/	豆腐	トーフ	トーフア [to:ɸa] (＜トーフ-ア)	語末母音が脱落
/si//ci//zi/ /su//cu//zu/	蛆 水	ウジ ミズ	ウツジャ (＜ウジ-ア) ミツザ (＜ミズ-ア)	語末母音が脱落 & 重子音化
/ki//ku/	柿	カキ	カツカ (＜カキ-ア)	①脱口蓋化 (*kja > ka) ② r の強化 (r > d) ③有声破裂音促音の撥音化 (juQba > juNba)
/bi//bu/	指	ユビ	ユツバ、ユンバ (＜ユビ-ア)	
/ri//ru/	鳥	トリ	トツダ、トンダ (＜トリ-ア)	

主題形式をめぐる形態音韻論



コドマ	〈子供〉	∅
イトコ	〈従兄〉	ア
タロー	〈太郎〉	ワ

- 三国町安島方言：

(27) a. ソノ コドマ {∅/*ア/??ワ} ナンゴ シトツタンジャロカナ
「その子供は何をしていたんだろうな」 【主題】

b. ソノ イトコ {*∅/ア/??ワ} ナンゴ シトツタンジャロカナ
「そのいとは何をしていたんだろうな」 【主題】

c. タロー {*∅/ガ/ワ} ナンゴ シトツタンジャロカナ
「太郎は何をしていたんだろうな」 【主題】

- 〈子供〉はゼロ標示、〈いとは〉は「ア」、〈太郎〉のみ「ワ」OK?

主題形式をめぐる形態音韻論（三国町安島方言）

語末音	語例	見出し形	主格形（-ガ, -ア, -∅）	主題形（-ワ, -ヤ, -ア, -∅）
/a/	子供	コドマ	コドマ-∅	コドマ-∅
/e//o/	いところ	イトコ	イトコア（<イトコ-ア）	イトコア（<イトコ-ア）
/i/	狸	タヌキ	タヌッカ（<タヌキ-ア）	タヌキャ（<タヌキ-ヤ）
/N//R/	太郎	タロー	タロー-ガ	タロー-ワ

※語末音が/u/の場合の主題形は複雑なため割愛

- 主題形式ワに、語末音等に条件付けられた異形態 ヤ, ア, ∅ を認める
- 主題形式が異形態 ア, ∅ をとる環境においては、主題形は主格形と同形となる
- 一部の条件下で主格形式ガと主題形式ワの両方に異形態アが生じている
→ 石川・富山県方言における主格形式ア(ナ)成立の端緒か

総括

• 主語標示の地域差

- ゼロ標示を基本とする富山市方言から、原則として有形標示される（有標主格性の強い）白山市河原山・三国町安島方言まで、大きな地域差

• 2つの要因（「動作主性・有生性」と「主題性」）が関与する示差的主語標示（ア/∅ 交替）

- 動作主性・有生性が高い方に有形標示が偏るのは琉球諸語や西日本方言と共通。焦点主語を標示するアがガに由来するとすれば、ガの「脱主題化仮説」（下地2019）でその成因は説明できるか（ただしアが共時的に「脱主題化標識」として機能しているとは言えない）

• 主格形式ガ、主題形式ワそれぞれに異形態アが発生（@三国町安島）

- 情報構造にかかわらず広く主語を標示する主格形式アの由来か

参考文献

- 小西いずみ (2016) 『富山県方言の文法』 東京: ひつじ書房.
- (2022) 「富山市方言における格成分のゼロ標示 二重対格相当構文が可能になることに着目して」 『日本語の格表現』 91-108. 東京: くろしお出版.
- 坂井美日 (2019) 「第2章 熊本市方言の格配列と自動詞分裂」 竹内史郎・下地理則編 『日本語の格標示と分裂自動詞性』 . 東京: くろしお出版
- 佐々木冠 (2006) 「第1章 格」 佐々木冠・渋谷勝己・工藤真由美・井上優・日高水穂 『方言の文法』 . 東京: 岩波書店.
- 下地理則 (2019) 「第1章 現代日本共通語 (口語) における主語の格標示と分裂自動詞性」 竹内史郎・下地理則編 『日本語の格標示と分裂自動詞性』 . 東京: くろしお出版
- 丹羽哲也 (1989) 「無助詞格の機能—主題と格と語順—」 『国語国文』 58巻10号. 38-57.
- 益岡隆志 (1987) 『命題の文法 日本語文法序説』 東京: くろしお出版
- Chafe, Wallace L. (1976) Givenness, contrastiveness, definiteness, subjects, topics, and point of view. In Charles N. Li (ed.) *Subject and topic*. 22-55. New York: Academic Press.
- Handschuh, Corinna (2014) *A typology of marked-S languages*. Berlin: Language Science Press.
- Lambrecht, Knud (1994) *Information structure and sentence form: topic, focus, and the mental representations of discourse referents*. Cambridge: Cambridge University Press.

謝辞

長時間にわたり調査にご協力いただいた調査協力者の皆様に御礼申し上げます。

本研究はJSPS科研費 JP24K16087の助成を受けたものです。また本発表は国立国語研究所共同研究プロジェクト「消滅危機言語の保存研究」の研究成果です。

【補足】ア／∅ 交替の模式図

三国町安島

		動作主性・有生性	
		高	低
主題性	低		
	高		

白山市河原山

		動作主性・有生性	
		高	低
主題性	低		
	高		

七尾市

		動作主性・有生性	
		高	低
主題性	低		
	高		

富山市

		動作主性・有生性	
		高	低
主題性	低		
	高		

- 主格標示のみ
- 主に主格標示
ゼロ標示も許容
- 主にゼロ標示
主格標示も許容

【補足】分類・分析の観点（叙述類型と情報構造）

- ◆ 属性叙述文（益岡1987） . . . ㉠ （例） 子供は早く寝ないといけない
- ◆ 事象叙述文
 - 主題 . . . ㉡ （例） この年寄りは何をしているんだ
 - 文焦点 . . . ㉢ （例）（部屋の中を見たら）太郎が遊んでいたよ
 - 項焦点 . . . ㉣ （例）花子じゃなくて太郎が皿を割ったの
 - ✓ WH焦点
 - ✓ WH応答焦点
 - ✓ 対比焦点

- 属性叙述文の主題 ㉠ と項焦点主語 ㉣ は別個に取り扱う必要あり
- 事象叙述文の主題主語 ㉡ と文焦点主語 ㉢ は統一的に説明可能か

【補足】主語を標示する形式の整理（叙述類型と情報構造）

	富山	七尾	河原山	安島	大野	武生
a. 属性叙述文の主題	チャ/ワ/ナ	ア	ア	ワ/ア	ワ	ワ
b. 事象叙述文の主題主語	チャ/ワ ø/ナ	ア/ø	ア/ø	ワ/ア/ø	ø	ø/ワ
c. 文焦点主語	ø/ナ	ア/ø	ア/ø	ア/ø	ø	ø/ガ
d. 項焦点主語	ガ/ø/ナ	ア/ø	ア/ø	ア/ガ	ガ/ø	ガ

(例)

- 子供は早く寝ないといけない
- この年寄りは何をしているんだ
- (部屋の中を見たら) 太郎が遊んでいたよ
- 花子じゃなくて太郎が皿を割ったの

主題形式ワ & 焦点形式ガも
主格形式ア・ナも持つ方言

主題形式ワ & 焦点形式ガを持つが
主格形式ア・ナを持たない方言

	富山	七尾	河原山	安島	大野	武生
a. 属性叙述文の主題	チャ/ワ/ナ	ア	ア	ワ/ア	ワ	ワ
b. 事象叙述文の主題主語	チャ/ワ ∅/ナ	ア/∅	ア/∅	ワ/ア/∅	∅	∅/ワ
c. 文焦点主語	∅/ナ	ア/∅	ア/∅	ア/∅	∅	∅/ガ
d. 項焦点主語	ガ/∅/ナ	ア/∅	ア/∅	ア/ガ	ガ/∅	ガ

主題形式ワ & 焦点形式ガを持たないが
主格形式アを持つ方言

【補足】 a. 属性叙述文の主題

- 富山市方言： (28) では主題標示 (チャ・ワ) が必須、ゼロ標示を許容せず
(28) a. コドモラ { * \emptyset / チャ / ワ } ハヨ ネンナンガヤ
「子供は早く寝ないといけないんだよ」 【属性叙述】
b. コドモラ { ^{ok} \emptyset / #チャ / ワ } モー カエツトルワ
「子供はもう帰っているよ」 【事象叙述・主題】
- 白山市河原山方言： 主格標示 (ア) が必須、ゼロ標示を許容せず
(29) a. アメ { * \emptyset / ア } クモンナカデ デキルガヤザ
「雨は雲の中でできるんだよ」 【属性叙述】
b. アメ { ^{ok} \emptyset / ア } モー フットランカ
「雨はもう降っていないか」 【事象叙述・主題】
- 共通語でも「恒常的な出来事や客観的な事実を説明する文」の「ハ」は省略できない (黒崎2003)、総称名詞に \emptyset が現れにくい (丹羽2006)

【補足】d. 項焦点主語

- 三国町安島方言： 基本的に項焦点主語のみ焦点標示ガを許容

- (30) a. {^{ok}ユキ**ガ** / ユツカ (<ユキ**ア**)} フツテキタンジャワ
「(雨じゃなくて) 雪が降ってきたんだ」 【対比焦点】
- b. {^{??}ユキ**ガ** / ユツカ (<ユキ**ア**)} フツテキタ
「(外で遊んでいたら) 雪が降ってきた」 【文焦点】

- 少なくとも本発表で取り上げる諸方言では、項焦点主語を標示する**ガ**とあらゆる主語を標示できる主格形式**ア**はその分布・機能が異なるため、アをガの音声的変異とはみなせない